

地理教育支援検討部会 報告書概要

1. 支援を必要とする背景

高精度測位社会の効果は本来国民全体にもたらされるべきもの←しかし地図の活用力は低下気味
 地理空間情報技術の担い手の拡大→地理・地図への理解を拡げることが必要
 高等学校でGIS教育が必修化→GISの経験が無い教員が授業で扱えるよう教員研修に対する講師派遣等が必要
 災害に備える心構えと知識の醸成が必要→地形や土地の成り立ちを地図や災害伝承等から学ぶことが必要

2. 地理教育で地図・GISを活用する意義

- 地理教育の目標は、思考・判断を求められる様々な場面で必要となる「空間認識能力」の向上
 当該能力は以下の3つから形成
 - ① 「身の周りを空間の一部としてとらえる能力」
 - ② 「地域の特徴や土地の成り立ちを理解できる能力」
 - ③ 「地図やGISを活用して課題解決に向けた考察ができる能力」

3. これまでの取組と課題

- 地形図や主題図等の地理空間情報の整備・提供は、国土の姿の把握や災害の「備え」につながっている
- 出前授業、教員研修、教科書出版社説明会、サマースクール等の実施は地理空間情報の普及に貢献
- コンテンツの知名度不足、活用手法の普及不足が課題

4. 期待される取組(提言)

1. 地理空間情報の整備・提供と防災に関する取組

○地理空間情報の整備・提供の継続、自然災害に対する「備え」に関する普及啓発を行うことを期待

2. 児童・生徒、教員に対する情報発信の改善

○児童・生徒、教員にとってHP上で何がどこにあるか分かりづらい
 →HPの改善でコンテンツを見つけやすくなることを期待

3. 児童・生徒、教員に対する情報発信の強化

○地理院地図上の白地図が教育現場で使われているものと乖離。また、標準地図に防災教育につながるような情報が希少
 →地理院地図から出力される白地図の改善や、災害伝承情報の発信強化等を期待

4. 萌芽的取組の推進


○出前授業や教員研修等の取組は、地域や教育現場に対して地理空間情報の重要性に対する認知が進むきっかけとなるため、引き続き推進することを期待

5. 主な留意事項

- 教員に対する支援は教材共有へのニーズが高く、教育関係者や学識経験者、教材会社等が連携して当たる必要がある。この枠組に対して、地理空間情報の適切な提供等を通して積極的に取り組むことを期待
- 将来の高校地理の必須化等のタイミングで取組の成果について検証し、必要な見直しを行うことを期待

地理教育・防災教育の向上につながるコンテンツの整備・提供の改善案について提言

児童・生徒、教員に対する情報発信の改善




入り口を分かりやすくし、ストーリーの要素を取り入れて紹介

情報発信の強化



白地図: 子ども達が慣れ親しんでいる形式に変更
 災害情報: 災害伝承情報の発信強化

萌芽的取組の推進



出前授業や教員研修等の取組を引き続き推進